

2019. FEBRUARY

広報 JAだてし

70周年記念式典のようす



発行 伊達市農業協同組合（営農生産部編集）

〒052-8666 伊達市末永町 74 Tel.0142-23-2181

E-mail kouhou@ja-dateshi.or.jp

<http://www.ja-dateshi.or.jp>

JA 伊達市

検索



NO.616

Japan Agricultural cooperatives

主な内容

JA伊達市設立70周年記念功労者表彰式並びに祝賀会
平成30年度JA日胆地区女性部研修会並びに第56回日胆地区家の光大会開催
青年部冬季視察研修
農業の安全と適正使用講習会開催 その他

2月号

今月号の
トピックス

JA伊達市設立70周年記念

功労者表彰式並びに祝賀会



平成30年12月17日(月)にJA伊達市設立70周年記念式典をホテルロイヤルで開催しました。

功労者表彰を受けたのは設立50周年以降に3期以上役員を務めた方で、歴代組合長・代表監事他9名。式典には表彰者の他、JA伊達市役職員30名が参加しました。この設立70周年を記念し、正組合員全戸に記念誌と記念品の伊達産トマトジュース詰め合わせも配布しました。

昭和23年の設立後、平成10年にはJA伊達市・JA登別市・JA室蘭市の3JAが合併し、それぞれの特色を生かした農業生産で地域の農業振興に取り組んできました。

平成25年度に開始した冬野菜ハウス設置事業では92棟を設置し、ほうれん草や水菜などの出荷数量の増加に向け取り組みました。高糖度トマト事業では、11棟での生産を展開し、高収益作物として力を入れていきます。畜産では黒毛

和牛の年間の個体販売数は650頭で、この20年の間に約2倍となりました。近年、新規就農者の受け入れにも力を入れ平成30年度は4名(施設園芸1名、和牛養牛生産1名、イチゴ2名)が新規就農し、現在も6名の研修生が新規就農に向けて研修を行っています。

今後も組合員の付託に応え、当JAを持続的に発展させていきますので事業運営に對し、まして、ご協力よろしくお願ひ致します。



平成30年度JA日胆地区女性部研修会 並びに第56回日胆地区家の光大会開催



平成30年12月5日(水)～6日(木)にJA伊達市女性部(穴戸恵美子部長)は登別グランドホテルにて平成30年度JA日胆地区女性部研修会並びに第56回日胆地区家の光大会に参加しました。

日胆管内9JAの女性部員113名が参加した研修では「家の光記事活用体験」家族や防災講座「家族と生活を守りたいー災害時の心得」。ラジオパーソナリティ金子耕式氏が「家族間で必要なコミュニケーション」と題し、自身が相談された体験を交えて講演を行い「生活が豊かになり、家族の団欒や会話が減っていることによりコミュニケーションが取りづらくなっている。家族に必要なのは「時間と感動の共有」と力説されていました。

また、「肌にもおいしい北海道「コスメ」として、道産食物の残渣や規格外品を利用した安心・安全な化粧品の紹介もされ、試供後、多くの方々が買い求めていました。研修会終了後は、懇親会が行われ、他地区の部員の方々と女性部活動や地域の農業情勢について情報交換を行うなどして交流を深めました。



通常総会

平成30年12月20日(木)、フラワーアレンジメント教室をJA伊達市本所で開催し、部員10名が参加しました。昨年までは管内支部で開催していたものを今年から女性部事業として開催し、太田生花店より講師を招き、初めのうちはどこに挿して良いかわからず講師に聞きながらでしたが、慣れると大胆に千両や若松、スプレーカーネーション

フラワーアレンジメント教室

昨年までは管内支部で開催していたものを今年から女性部事業として開催し、太田生花店より講師を招き、初めのうちはどこに挿して良いかわからず講師に聞きながらでしたが、慣れると大胆に千両や若松、スプレーカーネーション、オンシジウム、ピンポンマム等の色とりどりの花木を活け、お正月を彩る華やかなアレンジメントを作り上げました。



1月21日(月)、JA伊達市において、第69回JA伊達市女性部通常総会が開催されました。総会は開会挨拶、来賓祝辞の後議事に入り、平成30年度事業報告、平成31年度事業計画などについて審議され、上程されたすべての議案が可決されました。また、総会終了後には地震や風水害における備えについての講習会が開催されました。

伊達市総務部危機管理室の協力のもと災害時の対応を学びとても有意義な講習会となりました。

役員改選については下記の通りとなっています。

- ・部長 穴戸 恵美子
- ・副部長 大平 愛子
- ・理事 渡辺 英子
- ・理事 大和 美喜子
- ・代表監事 広瀬 礼子
- ・監事 島林 英津子



青年部冬季視察研修

平成30年12月11日(火)〜12日(水)の2日間でJA伊達市青年部(坂元博行部長)では視察研修を開催しました。

研修には部員5名が参加し、1日目はJAよつていの土壌分析センターで分析方法や分析機材、シヤガイモシストセンチユウを顕微鏡で観察するなど貴重な体験をし、その後、札幌にて松井一晃税理士事務所の土田先生より経営移譲についてや、本年10月よ

り改定される消費税の軽減税率などの話を聞きました。

2日目にはホクレン札幌野菜センターで加工用カボチャ「りょうおもい」の詳しい栽培方法など新たな提案がされ



消費拡大に向け生産者の想いを話しました。最後



にカルビー北海道工場でのプスの生産工程を見

学し伊達産のシヤガイモがどのように消費者の元へ提供されているか実際に見ることができました。

今回の視察で得た新たな知識を十分に営農に反映させ地域農業の発展につなげることが期待されます。

青年部定期総会

1月25日(金)JA伊達市において、第64回伊達市農協青年



部定期総会が開催されました。総会は午後5時よ

り開催され、坂元部長の開会挨拶に続き、来賓より祝辞をいただいた後、議事へと移りました。

議事は平成30年度事業報告、平成31年度事業計画案などが上程され、すべての議案が可決されました。また、平成31年度の事業計画では、地域に根差した活動を積極的に、食育の実践や盟友同士でお互いに連携をとりながら

組織力を強化し、未来に向けた「農業」の基盤を築いていく基本方針が決議されました。

役員改選については、次の通りになっています。

部長	坂元博行
副部長	広瀬将大
理事	原将晴
代表監事	八木沼剛宏
監事	栗橋勝利

税務講習会

伊達市農業青色申告会(篠原一寿会長)は1月18日(金)にJA伊達市本所にて室蘭税務署の原政之上席国税調査官と札幌市の税理士法人松井一晃事務所の土田昌司税理士を講師に迎え、税務講習会を開催しました。

午前と午後の2回に分けて実施し、53名の青色申告会の会員の方々が参加した講習会は室蘭税務署より2019年10月からの消費税10%への引き上げ・軽減税率の対象品目等の説明があり、土田税理士

からは2020年から適用される青色申告特別控除額の変更など新たな税制改正の主なポイントや平成30年度申告および決算にあたっての留意点を説明しました。



経営者として税に対する様々な知識を定着させ、今後の営農に役立てると共に、確定申告を進めていきたいと思います。

農事組合長会議

平成30年12月18日(火)にJA伊達市本所にて農事組合長会議が開催されました。

各地区の農事組合長が集まり、JAの経営状況や今後の見通しなどの現状報告が行われ、総合農協として事業運営を継続させて行く方針を提示しました。また、平成31年度



の営農計画書の配布も行われました。



平成30年12月28日(金)にJ A伊達市本所にて営農計画書作成講習会が開催されました。講習会には組合員約50名が

営農計画書講習会開催

参加し、平成31年度の営農計画書の記入方法や変更点、土地利用計画、クミカン総括表生産と販売計画などの記載方法等について説明されました。営農計画書は営農改善や所得向上に向けて経営を把握することを目的としています。天候の影響等により計画通りに行かないことも多々あるかと思いますが、経営計画や経営内容を「見える化」し所得向上や効率化を目指して営農計画に基づいた営農をしていきたいと思います。

平成30年12月4日(火)～5日(水)にかけて洞爺サンパレスにて伊達市農協年金友の会の忘年会が開催されました。参加したのは会員31名と金融課職員3名で、参加された会員の皆さんはカラオケ大会や踊りで宴会を盛り上げ、日



年金友の会

平成30年度年金友の会忘年会

頃の疲れを温泉にゆつくり浸かり癒しました。



農薬の安全と適正使用講習会開催

平成30年12月20日(木)にJ A伊達市本所にて、農薬の安全と適正使用講習会が開催されました。新規就農者や研修生をはじめ、J A役員や青年部員など多くの組合員の皆さんが参加されました。講師は公益社団法人「緑の安全推進協会」よ



り派遣していただいたホクサン株式会社の出崎里永子氏で農薬の安全基準やドリフトに関する事例、栽培履歴の重要性などを説明しました。

高収益作物講習会開催

1月22日(火)にJ A伊達市本所にて、高収益作物講習会が開催されました。



講師は伊達市農務課の金田氏で、昨年1年間の調査を終わらせ、越冬玉ねぎとシソの収支から栽培方法、出荷までを解説しました。越冬玉ねぎはここ数年で栽培面積が19haに増え、収入面においても10aあたり30万円弱の所得が見込めるようです。シソでは生薬メーカーとの契約栽培で10aあたり20万円弱の所得が見込めま

す。講習会では参加した生産者同士で意見や質問が交わされ、新たな高収益作物の導入について議論されました。

農協職員

認定資格合格者

初級5名、中級9名、上級5名が合格しました。職員として国内外の農事情勢や農協法、簿記、人事管理等が試験科目となっており、職員のスキルアップが目的とされています。

乾施設精米業務 休日のお知らせ

1月7日(月)～9月1日(日)までの閑散期において、土曜・日曜・祝日の精米業務を休止させていただきます。何卒ご理解の程よろしくお願い致します。

※問合せ先(農産課)本所 TEL 0142-23-2181
麦乾施設 TEL 0142-23-2458



第10号

各課紹介

管理部 管理課

- 課長 清水 巖 (下段左から3人目)
- 係長 三浦 隆 (上段左から2人目)
- 調査役 和田 吉光 (上段左) (伊達市出向)
- 主査 吉藤 健 (上段左から3人目)
- 係 上野 一郎 (上段左から5人目)
- // 小林 真澄 (下段左から4人目)
- // 大道 園子 (上段左から4人目)
- // 村上 明 (下段左) (現：生産資材課)
- // 菅原 瑠真 (下段左から2人目) (現：共済課)
- 係(臨時) 福士 五月 (下段左から5人目)



コメント

当課は自己資本の維持や強化に向けて適正な管理を徹底するとともに、環境の変化に対応できる組織づくり、職員の能力開発の実践と人材育成に努めます。

今回は管理部経理課をご紹介します。

防犯訓練とコンプライアンス研修

平成30年12月7日(金)、JA伊達市本所にて強盗を想定した防犯訓練を伊達警察署の協力で実施しました。



訓練は警官が扮する強盗が刃物で職員を脅し現金を奪い逃走、その後警察に通報するといった流れで緊

金融側入り口から押し入り

迫した様子で行われました。20日(木)には登別支所でも防犯訓練が行われ、拳銃で職員を脅し現金を奪う想定で行われました。今後も本所・支所ともにこのような訓練を随時行い、防犯対策に万全を期することとしています。

不祥事を未然に防ぐため年1回必ず実施されます。役職員のコミュニケーションを十分に図ることや部下へのフォローアップ、上司への報告・連絡・相談をしやすい環境づくりを実践することにより事故を起こさせない組織にしています。



就農研修生研修会開催

平成30年12月3日(月)、5日(水)の2日間にあわせて胆振農業改良普及センターにて新規就農研修生向け農業技術・農業経営研修会が開催されました。

農繁期を過ぎ、伊達市で就農を目指す研修生の皆さんの実地研修も一段落したところですが、研修プログラムでは農閑期を利用して座学講習が

行われることとなっています。

3日の研修は農地の権利関係、JAの仕組み、JAの業務農業共済制度の仕組み、農業簿記入門の各説明を当JA営農指導課、伊達市農業委員会、普及センター、みなみ北海道農

済が講師となり行われました。特に農業簿記については全く初めての方が大半で、みなさん悪戦苦闘の様子でした

が、当JA営農指導課や、普及センターの指導で概ね理解できたようです。

5日は、普及センターより農業・防除の基礎知識等の講習が行われ就農時に役立つ情報・知識を解説しました。



J Aグループ通信

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介し
ます。J A北海道大会決議事項の実績やその時々のト
ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧
ください。

J A北海道 中央会



J Aグループ北海道は平成
30年12月17日に、北農ビルで
9月に刈り取った稲の脱穀や
しめ縄づくりを行いました。
田植えから稲刈りまで、1
年を通して行ってきた食育活
動「街なか田んぼ」の最終回と
して、中の島興正保育園の園
児10名が参加し、園児自らが
茶碗を使って稲を脱穀、すり鉢
で粉すりをし
た後、精米機
を使って精米
まで行いまし
た。ご飯が炊



けるまでの間、稲わらを使った
しめ縄づくりも体験。最後は
炊きたてのご飯でおにぎりを
握り、自分たちが作ったお米
を味わいました。

J Aグループ北海道は、こ
れからも農業体験を通じて食
と農の大切さを子供たちに伝
えて参ります。

J A北海道 信連



昨年12月に、地域貢献活動
の一環として、サンタクローズ
に扮したJ Aバンクのキャラ
クター「ちよリス」が、被災地
のむかわ町、厚真町、安平町と

釧路市・中標津町の幼稚園等
10カ所を訪問しました。

園児らと野菜しりとリゲー
ムやダンスなどで楽しく交流
し、最後にちよリスからクリス
マスプレゼントを贈りました。

地震により
被災した地区
の子供達も
ちよリスとの
触れ合う時間
を楽しんでい
ました。



ホクレン



ホクレンは、冬においしい北
海道かぼちゃ「りょうおもい」
をアピールするイベント「冬至
には「りょうおもい」を食べよ
う」を昨年12月15日、札幌市
清田区のイオン札幌平岡店で
開きました。

同店の青果
売り場で
「りょうおも
い」を販売す
るとともに
(株)もりもと



の協力を得て、「りょうおも
い」を使用したせんざい1,0
00食を正午からと、15時か
らの2回に分けて来店客に提
供しましたが、それぞれ1時
間ほどで終了する盛況ぶりで
した。

J A共済連 北海道



2月4日から11日まで開催
される「第70回さっぽろ雪まつ
り」大通会場4丁目にて、「平
成30年度J A共済全道小・中
学生交通安全ポスターコン
クール」の入賞作品63点を展示
します。

交通安全の大切さや交通
安全に対する願いが描かれた
小・中学生の皆さんの力作を
ぜひご鑑賞ください。

J AとJ A
共済連北海道
は、今年もさ
まざまな地域
貢献活動に取
り組んでまい
ります。



J A北海道 厚生連



12月18日(火)札幌厚生病院小
児科病棟にてクリスマス協会が
開催され、北海道コンサドー
レ札幌の深井選手と菅選手
ドーレ君、コンサドールズが病
院を訪問されました。

この企画は、J Aグループ
北海道とコンサドールとの相
互協力協定に基づき、食育と
スポーツ文化、地域文化振興
にかかわる事業の一環として
行われ、今年が11回目となり
ます。

プロ選手を目の前にして
緊張気味の子どもたちでした
が、PK合戦やダンスで緊張
もほぐれ大いに盛り上がり
満面の笑みを浮かべていまし
た。



平成29年産 米穀共同計算の結果について

【うるち米(1等)：1俵当たり税込】

○販売収入 (単位：円)		○経費 (単位：円)	
販売代金	16,229	検査・保管経費	89
その他(前年産繰越金見込み)	44	概算金金利(立替分金利・ホクレン基準金利)	60
合 計	16,273	事故処理経費	11
		生産・集荷・販売経費	633
		その他経費(米需要拡大・需給安定対策拠出金)	50
		手数料(JA・ホクレン・全農)	781
		合 計	1,624

(注) 数値については端数処理の関係で、実際の精算額と内訳が一致しないことがあります。

○生産者手取り額(共同計算によるJA伊達市精算分)

(1俵あたり税込単価/円)

品種	等級	品位区分	概算金	追加払い (8月)	追加払い (12月)	加算契約	出荷確約 格差	全道共販 措置格差金	S成分加算 金(低蛋白)	2等高品质 等級格差	合計
ななつぼし	1等	6.5%以下	13,700	800	372	11	45	16	84		15,029
		6.8%以下	13,700	800	372	11	45	16			14,945
		6.9%~7.9%	13,200	800	372	11	45	16			14,445
		8.0%~8.4%	13,100	800	472	11	45	16			14,445
	8.5%以上	12,900	800	672	11	45	16			14,445	
	2等	6.5%以下	12,200	800	372	11	45	16		163	13,608
		—	12,200	800	372	11	45	16			13,445
3等	—	11,200	800	372	11	45	16			12,445	
きらら397	1等	8.8%以下	13,200	800	164		26	16			14,206
		8.9%以上	12,900	800	464		26	16			14,206
	2等	—	12,200	800	164		26	16			13,206
ほしのゆめ	1等	6.8%以下	13,700	800	287						14,787
		6.9%~7.9%	13,200	800	287						14,287
		8.0%~8.4%	13,100	800	387						14,287
	2等	—	12,200	800	287						13,287
おぼろづき	1等	7.9%以下	13,500	800	491		19	16			14,826
		8.0%以上	13,200	800	363		19	16			14,398
	2等	—	12,500	800	491		19	16			13,826
	3等	—	11,500	800	491		19	16			12,826
ゆめぴりか	1等	6.8%以下	15,000	500	321		126	16			15,963
		6.9%~7.4%	14,500	500	304		126	16			15,446
		7.5%~7.9%	13,200	800	216		126	16			14,358
		8.0%以上	12,800	1,200	216		126	16			14,358
	2等	—	11,800	1,200	216		126	16			13,358
	3等	—	10,800	1,200	216		126	16			12,358
きたくりん	1等	6.8%以下	13,700	800	221						14,721
		6.9%~7.9%	13,200	800	221						14,221
		8.0%~8.4%	13,100	800	321						14,221
		8.5%以上	12,900	800	506						14,206
	2等	—	12,200	800	221						13,221
その他	2等	—	12,200	800	814						13,814
	3等	—	11,200	800	814						12,814

【 加工米(1等) : 1俵当り税込 】

○販売収入 (単位：円)

販売代金	10,503
その他(前年産繰越金見込み)	6
合計	10,509

○経費 (単位：円)

検査・保管経費	90
概算金金利(立替分金利・ホクレン基準金利)	48
事故処理経費	23
生産・集荷・販売経費	754
その他経費(米需要拡大・需給安定対策拠出金)	51
手数料(JA・ホクレン・全農)	385
合計	1,351



(注) 数値については端数処理の関係で、実際の精算額と内訳が一致しないことがあります。

○生産者手取り額(共同計算によるJA伊達市精算分)

(1俵あたり税込単価/円)

品種	等級	概算金	追加払い	追加払い	合計
			(8月)	(12月)	
全品種	1等	8,500	300	740	9,540
	2等	7,500	300	740	8,540
	3等	6,500	300	740	7,540

農と食の
総合雑誌

地上

GOOD EARTH

お申し込みは JA へ

定価(税込み) / 普通月号.....606 円
付録付号(5・11月号).....668 円

JA の家庭雑誌

お申し込み受付中

あなたの元気が
わたしの元気

家の光

- 普通月号
税込 **617 円**
- 付録月号
(1・4・5・7・9月号)
税込 **906 円**
- 付録月号
(家計簿付12月号)
税込 **1,008 円**

第29回 J A 北海道大会 (平成30年11月13日)

テーマ「多様化する組合員ニーズに応える
新たな協同組合の価値創造」
パネルディスカッション

J A 北海道大会並目に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介いたします。



宮入 隆氏
北海学園大学 教授

テーマは、議案第2号に係る協同組合の価値づくりです。難しいテーマですが、前回大会と2回の実践フォーラムを通じ、各地で様々な取り組みを開始していると思います。これまでを総括し新たなステップに繋げるための段階として、J A の持つ多様な役割を再確認する場とさせていただきます。

元々は新聞社で農林水産業の取材に携わり、今は東日本大震災、特に福島原発事故で被災した地域の取材に行っています。取材を通じ、協同組合の意義について考えさせられる機会も度々あります。



青竹 豊氏
(一社)日本協同組合連携機構 (JCA) 常務理事

あわせて、今後の実践のヒントをパネリストの皆さんから頂き、持ち帰ってもらえればありがたい。

JCA は4月に立ち上がりました。J A、生協、森林組合漁協など様々な協同組合の連携を広げるために設立。私は4月まで日本生協連に



行友 弥氏
㈱農林中金総合研究所顧問 特任研究員

おりました。協同組合の連携を、より強めることについて知っている範囲で事例報告をさせていただきます。



小野寺俊幸氏
J A 北海道中央 会副会長
J A ころ会長理事

全道 J A の代表であり、生産者として、組合員のニーズにどう応えていくか。最も難しい問題について、考えていきたい。パネリストの皆さんの話の中で、一つでもヒントを得たいと思います。

【事例報告】

- ① 生協における組合員との関係強化
- ② 持続可能な開発目標 (SDGs) と協同組合間連携

宮入教授 まず、『組合員との関係強化』について、報告事例も踏まえて討論します。生協と農協の共通の課題も多くあると思います。多様な組合員ニーズへの対応として組合員の自主性を保ちながら、新たな参加の形をどうしていくか。組合員の想いをくみ取り新たな活動に変え、組合員参

加の多様な形を実現させるといふ示唆に富む報告でした。行友顧問 事例報告のキーワードは「元気」「楽しく」「多様」「地域に」でしょう。生協の活動をそついう方向に高めていくことが大切だと感じました。地域が抱える課題は人口減少・少子高齢化などを背景に複雑化・多様化しています。

協同組合も規模が大きくなると、サービスを二方的に供給することになりがちですが組合員自らの参加で課題を解決する流れを作ることが大事です。J A は農政の実務を担ってきた歴史もあり、組合員が受け身になりやすく、自ら能動的に組合運動に参加する意識が薄れているのかも知れません。生協も同様の問題を苦勞して乗り越えようとしてきていると思います。

宮入教授 受動から能動へ切り替える難しさ。想いをくみ取って、参加スタイルを多様にする。生協も実現までにご苦勞があったと思います。

青竹常務 各生協で、参加を

どのように広げていくか、大きな悩みを抱えながら、日々格闘している。

J A の方が、農業者にとってなくてはならない存在であり先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあった参加の仕方を磨いていきたいです。

宮入教授 J A も生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で今までと違い、世代間のギャップなどが課題にあれば伺いたい。

小野寺副会長 J A も70年の歴史を経た中、若い人たちにどうやって J A に結集してもらうか。農協運動の中で組合員が何を求めているか。若い人たちと農協運営者の目線考えのギャップが大きく出てきており、そこに農協運動の難しさがあります。

地震で被災した J A の施設に、若い人が結集して、被災したコンテナや馬鈴薯などを自分たちの力で片づけ、1週間かかる作業が2日間で終

わった。

若い人たちが農協に結集すると、すごい力となって働く。

若い担い手の力の素晴らしさ。普段は、口にしなければ何かあればJAに結集して仲間や友を助ける自分のJAという想いに感銘を受けた。

宮入教授 組合員との関係強化と言つと、いつもは自然に存在しているが、何かあったときに、JAに入っていて良かった、組合員で良かったと感じることも大きいのでは。福島取材でのお話などあれば。

行友顧問 住民が長期間避難した地域では農業が空白状態になりましたが、飯舘村などでは最初にお年寄りが戻り最近若者が移住して就農するケースも出てきています。

そういう地域は人の繋がりが濃密で支えあいの土壌があります。社会関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないのでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと思います。

宮入教授 「組合員との関係強化」について、組合員の自主性をどう協同活動に活かすか。

JAでも、組合員の想いを上手く活かして事業にしていくなことが、ニーズの多様化の中で求められると思う。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法としてアンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

青竹常務 生協の職員にとっては、生活や子育てへの組合員の想いを聞き取る力が大変重要です。

宅配担当職員は、週に1度組合員と顔を合わせ、いろいろな質問や悩みを聞く、生協をやめると言われる場合もあります。その背景を聞き取ることが大事。また、近畿の生協では、職員研修で、JAにお願いをして、一定の期間、畑や牛舎、鶏舎など、生産現場を体験させてもらっています。

本日の大会議案で、若いJA職員に組合員の会議への参加を位置づけています。現場・組合員の所に行くことが重要であり、その中で、聞き取る力や相手の想いを受け入れる力が育ちます。このことが人と人が作る協同組合の大きな特徴だと思います。

宮入教授 聞き取った内容を情報交換する場所はあるのでしょうか。

青竹常務 すぐに対応できるものは対応し、重要な商品クレームなどは、組織対応に引き上げることあります。

クレームやお問い合わせ要望を登録し、組織全体あるいは役員会・理事会で状況をつかむためのデータベース作りを進めている生協も増えていきます。

宮入教授 担当者も変わる中でデータベースにクレーム等も含めて、声を溜めることが、新たな取り組みに繋がるというお話。なるほどと思います。多様な組合員ニーズという意味で、北海道の組合員数の

80%に及ぶ准組合員との関係づくりをどうするか。准組合員との関係づくりについて教えて頂きたい。

小野寺副会長 前回大会で550万人サポーターづくりを掲げ、准組合員をはじめ、消費者の皆さんと、食と農で繋がることを目指して活動をしています。

農業者もある意味で消費者だと考えますと、多様な消費者がおり、生協からも、色々と学んでいかないとはいけませんし、これからは、生協を含めて色々な方々と手を結び、横の連携を広くして、農業だけの目線で見るとはなく、多様な人たちの意見を農協が取り入れられるかに尽きると思います。

北海道の世帯数の60%以上が、生協に加入しています。生協における組合活動の素晴らしさを、我々も認識し、組合員との関係強化に向けて、目線移していかないといいけないと考えています。

宮入教授 准組合員調査を通

じて、准組合員はJA事業利用に対して正組合員に近い考え方を持っていると感じています。自ら准組合員になっていく方々の声を、聞き取っていくことも大事だと思います。

行友顧問 JA横浜では、准組合員向けの農業体験講座が発展して正組合員の農業を手伝う援農ボランティアの取り組みとなり、正組合員と准組合員との関係を作る契機にもなっています。

北海道は、准組合員の割合が高く、農協がないと地域が持たない部分もあると聞きま。地域の様々な課題に対応するうえで、正と准の垣根を低くして、協力しあう関係作りが必要だと思っています。

宮入教授 JA事業でライフライン・インフラを維持している地域が数多く存在するのも事実で、あつてはならないが准組合員の利用が規制されるとJA事業も影響を受けます。正と准の支え合いを、目に見える形で作っていく必要があると思います。

理事会のうごき

第26回理事会…平成30年12月27日(木)

- ▶ 理事に対するクミカン供給限度の変更について
- ▶ クミカン供給限度額及び貸越極度額の変更について
- ▶ 共済規程の一部変更について
- ▶ 平成31年度料率・手数料の設定について
- ▶ 加工用玉葱販売に係る精算について

第27回理事会…平成31年1月29日(火)

- ▶ 平成31年度料率・手数料の設定について
- ▶ 平成31年度事業計画案並びに固定資産等取得・処分計画案について
- ▶ クミカン供給限度及び貸越極度の変更について
- ▶ JA 伊達市特別条件緩和資金措置対象組合員等の経営継続について
- ▶ JA 伊達市特別条件緩和措置組合員の資金借換えについて
- ▶ 第3四半期自己監査結果について

伊達市農業青色申告会からお知らせ

★確定申告受付対応について

本年の確定申告受付対応期間

平成31年2月1日(金)～28日(木)まで(伊達・室蘭地区)、3月4日(月)～6日(水)(登別地区)となっておりますので期日厳守で宜しくお願い致します。

※税理士による電子申告及び代理権限証書添付による申告のため昨年同様の受付対応期間となっております。また、混雑が予想されますので必要書類整備の上お早めに手続を行ってください。ご協力お願い致します。

★定期総会の案内

平成30年度 伊達市農業青色申告会定期総会

開催日時：平成31年2月15日(金) 午後2時より
開催場所：JA伊達市本所 2階会議室

※総会当日2月15日(金)の申告受付出来ませんのでご了承ください。

未来を変える。 みんなで作る。

国営緊急農地再編整備事業 「伊達地区」 Vol.19

～期成会役員会及び 各地区説明会を開催～

昨年12月25日、平成30年度2回目となる促進期成会役員会を開催しました。今回の役員会では、昨年実施した「土地所有者等意向調査」、「将来の経営面積意向調査」の結果報告や「地区推進委員会の設立」について審議を行い、承認されました。

また、役員会で承認をいただいた内容を基に、1月18日～1月28日にかけて、全7回にわたり地区説明会を開催し、多くの農業者や土地所有者の方にご参加いただきました。

今後のスケジュールについては、説明会の資料にも記載のとおり、当初3年間を予定として始まった地区調査が、昨年9月に発生した胆振東部地震による影響や詳細な転石調査の実施が必要となったことから、1年延伸となり、2017～2020年度の4年間(予定)で実施することになりました。今後も引き続き、皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。



◆問い合わせ先

伊達地区国営緊急農地再編整備事業
促進期成会事務局
(伊達市経済環境部農務課農地再編推進室内)
Tel.0142-23-3331 (内線 539)